2024年1月28日(日)
中国新聞SELECT掲載

JICAだより

ヨルダン
(2018～20年派遣)
川崎夏美さん(32)
東広島市

遊び通した学び 芽吹く

幼稚園教諭として日本で4年間働き、2018年にJICA海外協力隊員としてヨルダンに赴任した。首都アンマン近郊のマダバ県の教育局に配属され、公立幼稚園で活動した。

「遊びを通した学び」を伝えることがミッション。現地の幼稚園ではアラビア語と英語の学習時間が多くを占めていることは事前に知っていたが、予想外だったのは「歌や踊り、工作を教えてほしい」と言ってくれる先生が一定数いたことだ。日本の大学や現場で幼児教育を学び、遊びを通した学びの大切さを感じていた私にはうれしく思え、それに応えたいと思った。

しかし、「時間がない」「自分が席を外す間に遊んでいて」と言われることもよくあった。ある日、教育局の幼児教育を担当する現地職員に「先生たちと一緒に遊びを考え、子どもたちの話をしたいのに難しい」と悩みを伝えた。すると「昔は体罰もあったが今はほとんどない。幼児教育は確実に変化している。でもまだ途中、少しずつよ」という言葉が返ってきた。

先生たちは、アラビア語と英語を教えることに追われていた。私が、遊びを通した学びが必要と当たり前のように思ってきたように、この地の先生たちは読み書きを教えることが子どもたちのためだ、と思ってきたのではないか。どちらが良い悪いではない。

ただ、そんな中でも、遊びから育つものの大切さに目を向けようとする先生はいた。小さな〝芽〟かもしれないが確かに芽生えていた。「私が幼児教育で大切にしてきたことと、現地で大切にされてきたことを共有し、共に考え、この小さな芽を守りながら少しずつ大きくしたい」と思った。

帰国後3年たった昨年2月、その幼稚園を訪ねると、芽はわずかだが育っているように見えた。

マダバの幼稚園で現地の先生（奥右）と折り紙を教える筆者（同左）＝画像の一部を修整しています